

～TANKYU～

谷地南部小学校
校内研究だより
2023. 3. 20
No.61 文責 荒木秀

先達に学ぶ

海軍軍人であった山本五十六の「**やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ。**」という言葉、みなさんも一度は耳にされたことがあるのではないでしょうか。太平洋戦争開戦時に、連合艦隊司令長官として多くの部下を統率した山本のこの言葉は、その後、優れた格言として多くの経営者や指導者に用いられるようになりました。

実はこの格言には続きがあることを、みなさんご存知でしょうか？「**話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず。**」教室という空間で、子ども達をまとめる立場として、「なるほどなあ。」としみじみと感じます。この格言には、3つのフェイズがあることがわかります。



	部下（子ども）を	〈目的〉	上司（教師）として	〈手段〉	
1	動かすためには		・やってみせる ・させてみる	・言って聞かせる ・ほめる	守
2	育てるためには		・話し合う ・承認する	・耳を傾ける ・任せる	破
3	実らせるためには		・感謝で見守る ・信頼する		離

表にすると、さらにこの言葉の奥深さが見えてきませんか？3の「実らせる」という言葉がわかりにくいですが、私の感覚としては「自発的に、自主的にできる」、つまり「自律した姿にする」といったイメージです。

1つ目のフェイズでは、しっかりと手本を示し、手をかけなければなりません。まずは型を教えるといったイメージでしょうか。少しだけ話が脱線しますが、校長先生が研修会で紹介してくださった「絵から何が読み取れるのか」という実践は、つくば言語技術教育研究所所長の三森ゆりかが提唱したものです。三森は、欧米人がどうして生き活きと話ができるのかという課題意識をもち、現地に出かけ調査研究を行いました。そして、きちんと型を教える重要性に気付きました。だから、つくば言語技術教育研究所で最初に教えるのは「私は、〇〇が好きです。わけは、～。」だそうです（すみません、20年前に読んだ本の記憶なので、

まちがっていたら、ごめんなさい🙏)。

どうも、この「型を教える」ということにアレルギー反応を示す人がいます（型を教えると、子ども達の自由な発想をつぶしてしまう等々）が、それは違うような気がします。だって、言葉を知らなければ、自由に言葉で表現することはできないし、描き方を知らなければ、自由に絵で表現することもできません。まずは、最低限の型は必要です。自由に使い出すのは、次のフェイズからです。

2つ目のフェイズは、1つ目のフェイズのどちらかということと教師の一方的な教え込みから、子ども達が自分たちで工夫を凝らす段階です。「先生、こういう風にやった方がやりやすい。」なんて言葉が出てきたら、2つ目に入ったサインですね。

では、このときに教師は何をするべきか。山本は「話し合う、耳を傾ける、承認する、任せる」ことが大事と説きます。先ほどの「先生、こういう風にやった方がやりやすい。」という子どもの発言に、みなさんはどう言葉を返しますか？答え方はいろいろあると思います。

- よく理解できなかつたら、「それ、どういうこと？」（耳を傾ける）
- 納得できるものであれば、「なるほど、それいいね。」（承認する）
- それはちょっとまずいかもと思ったら、「なるほど、でもね、・・・。」（話し合う）

言うまでもありませんが、「それダメ。教えたのと違うでしょ。」（否定する）は、ダメですよ。それこそ、子ども達の自由な発想は、ここでストップしてしまいます。大人は、子ども達に比べ経験豊かなため、先が見えてしまうことがあります。「そのやり方では、間違ってしまう。」「時間がかかってしまう。」と。そして、ついつい口を出してしまいたくなります。でも、そこはぐっと我慢です。後は、「任せる」のみです。

2つ目のフェイズで認められた子ども達は、3つ目のフェイズで更に飛躍します。自分たちで考え行動します。それは、自分たちの自由な発想で作ったオリジナルです。教師がやるべきことは、ただ「感謝で見守る」「信頼する」ことだけです。つまり、ほとんど何も無いということです。1つだけあるとしたら、子ども達のやったことに対する責任を負うということでしょうか。

この3つのフェイズを見たとき、私はもう1つ、別の言葉を思い出しました。それは、世阿弥（『風姿花伝』※諸説あります。）の「**守破離**」です。紙幅の関係で詳しく書けません。興味のある方は、自分で調べてくださいね。これって、私たち教師にも言えることだなと思います。3年目に入る菅野先生は、そろそろ「**破**」かな。自分に合った「やりやすい」を見つけてくださいね。伊藤先生は、5年研も済んだので、「**離**」ですかね。いや、もしかしたら、もうすでにオリジナルの指導法を確立したかな？2人とも、来年度が更に楽しみです。ほんのちょっとだけ先輩からのエールでした。